

# 児童養護施設

## 自己評価表

### 評価項目(細目)の評価

(よりよい施設を目指して…)

#### ※記入方法

- ① 職員の皆さんの意見を取り入れて記入して下さい。
- ② a:できている b:普通 c:できていないを選択してください。
- ③ 判断した理由や根拠を記入して下さい。
- ④ 改善に向けた考え等あれば記入して下さい。

記入年月日

令和8年(2026年)3月9日

施設名

おさひめチャイルドキャンプ

記入者名 「自己評価チーム」

連絡先電話番号

0265 - 22 - 3875

## I 養育・支援の基本方針と組織

## I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	養1	b	「子どもや保護者への周知が図られているか」は十分でない。	理念や基本方針は、毎年大きく変わっていくものではないと思う。年度初めに全職員で確認しているものを再確認し、年度中間でも実施したい。子どもたちにも年度始めに「全体会」を通じて説明したい。
			<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	
			<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	
			<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	
			<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	
			<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
			<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	

## I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
I-2-(1)-① 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	養2	a	当施設に関するだけでなく、長野県児童福祉施設連盟役員として、長野県全体についても把握・分析している。	
			<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	
			<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
			<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
			<input type="checkbox"/> 定期的に支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	
I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	養3	b	理事会・評議員会の会議内容が分からないという意見があった。協議内容を職員会でも報告しているが関心を示さない職員もいる。	理事会・評議員会については、WAM-NETでも公開されているが、職員会等へは決算内容などコメントを含め、より具体的な内容を公表していく。
			<input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
			<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	
			<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
			<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

## I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	養4	b	後期の長野県社会的養育推進計画が示されたが、到底不可能な数値目標もあり、県行政に対して多くの疑問を持っている。その中であって中・長期的なビジョンは策定しづらい。	県からの施設運営や事業展開の計画・構想に関してのヒアリングシートに記入しリーダー会にて検討した。
			<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
			<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
			<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
			<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	
I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	養5	b	単年度計画は「数年後はどうあるべきか、そのために今年は何をすべきか」だと思ふ。入所率が下がっている現状において、その策定に難しさを感じる。	子どもの入所率が上がらないことには、中・長期計画の策定・実施は難しい。
			<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
			<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
			<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
			<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが行われ、職員が理解している。	養6	b	職員が「施設経営に参画」という意識が薄いように感じる。日々子どもたちへの支援に精一杯で、事業計画の策定など経営というところまでは取り組めていない。	リーダー会やサブリーダー会などで、事業計画等の原案作りが必要かもしれない。
			<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
			<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
			<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
			<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
			<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	
I-3-(2)-② 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	養7	b	様々な保護者がいる現状では、個々のケースに合った周知の仕方が考えられる。	理解できない子、施設を拒否している保護者への周知は難しい。
			<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
			<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
			<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
			<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

## I-4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
I-4-(1)-① 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に 行われ、機能している。	養8	b	PDCAのサイクルもできつつはあるが、個々のケースやユニット間に差があり、十分とは言えない。	評価を施設長から各ユニットリーダーに返し、ユニット内で共有する仕組みづくりが必要。
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	
I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	養9	b	課題を文書化したがる、共有化がまだ不十分である。	改善計画の見直しを計画的に進める場＝リーダー会の活性化
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

## II 施設の運営管理

## II-1 施設長の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 施設長の責任が明確にされている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	養10	b	職員会等で役割と責任について明言している。あえて広報誌等に掲載する必要はないと考えている。	ホームページやインスタグラムの利用を考えている
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	
II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	養11	a	多くの法律や条例ができて、それを理解し現場の支援には当てはめていくことは難しい。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

II-1-(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-1-(2)-① 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	養12	b	「具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。」とは言い難い。意欲の向上に繋がる言葉かけや支援の難しさがある。	養育・支援の質向上のため、絶えず自己研鑽を続ける姿勢は大切であると感じている
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	
		<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	
II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	養13	b	アンテナを高くし情報を多く取り入れようと、いろいろ工夫はしてきたが、まだまだ十分でないと思う。	他施設のよいところは積極的に取り入れていきたい。
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

## II-2 福祉人材の確保・育成

II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	養14	b	職員の採用に関しては、毎年一定数の採用があるわけではなく、退職希望者が出たところで各学校やハローワークに求人票を出しているが、採用活動はできるだけ早く行いたい。	インターンシップ(学生アルバイト)を導入し、採用の有無に拘らず就職希望者が、事前に施設と関係性がとれるようにしている。また「リファラル採用」を始めた。
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	

		<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。 <input type="checkbox"/> (社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。		
II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	養15	b	大規模な法人で人事労務部門が機能しているところは可能かもしれないが、小さな法人では成果や貢献度を評価することは難しい。 仕事に対するモチベーションが上がるような工夫をしたい。	
		<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができて いる。 <input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。 <input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。 <input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	養16	a	全体的にできていると思う。	
		<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。 <input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。 <input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。 <input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。 <input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	養17	b	年2回の個別定期面談を通じて目標を設定しているが、資質向上につながっているか疑問である。個人差が出てきている。	新任職員へは、より丁寧に育成プログラムに取り組んでいきたい。
		<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。 <input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。 <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。 <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。		
II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	養18	a	概ねできていると思う	
		<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。 <input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。 <input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。 <input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。		
II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	養19	b	研修の機会をできるだけ確保しているが、研修に限らず職員間に仕事に対する「意欲」の差がある。全体のスキルアップが必要。	年度始めに個人ごとの研修計画を立てたい。
		<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。 <input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。 <input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。 <input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。 <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。 <input type="checkbox"/> (社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパージョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-2-(4)-① 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	養20	b	実習指導者(職員)によって、実習生への対応に差が生じている。	指導の統一性を感じる。他施設の状況を参考にしたい。
		<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。 <input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。 <input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。 <input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。 <input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。		

## II-3 運営の透明性の確保

II-3(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-3(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	養21	b	地域に向けて配布している印刷物や広報誌はない。	個人情報の漏洩には気を付け、SNSを含めた情報公開の在り方を検討したい。Instagramによる発信も検討している。
			<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	
			<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
			<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
			<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	
II-3(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	養22	a	概ねできていると思う。	
			<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
			<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
			<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	
			<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	

## II-4 地域との交流、地域貢献

II-4(1) 地域との関係が適切に確保されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-4(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	養23	b	友人が遊びに来た場合、他児への配慮も考慮し、子どもたちの居室・ユニットへは入らず、共用の「交流ホール」等での交流を実施している。	地域交流ホールの使用規程はあるが、関わり方の文書化までには至っていない。
			<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
			<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	
			<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	
			<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	
			<input type="checkbox"/> (児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	
II-4(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	養24	b	コロナ後のボランティア受け入れマニュアルの改善が必要	研修への参加を進める。
			<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
			<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
			<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	
II-4(2) 関係機関との連携が確保されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-4(2)-① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	養25	b	社会資源を明示したリスト等や資料は作成していない。ネットワーク化には至っていない。	こども家庭センターの設置に伴い児童養護施設の役割を明確にしたい。
			<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
			<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	
			<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	
			<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
		<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。		
II-4(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
II-4(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	養26	a	地域の公民館活動・まちづくり委員会などに積極的に参加している。	
			<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	
			<input type="checkbox"/> (社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
			<input type="checkbox"/> (5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
II-4(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	養27	b	「地域に還元する取り組みを積極的に行っている」はまだ十分ではない。	地域が施設に求めているものは何かを精査してみる必要がある。
			<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
			<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
			<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
			<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
		<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。		

## Ⅲ 適切な養育・支援の実施

## Ⅲ-1 子ども本位の養育・支援

Ⅲ-1-(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	養28	a	理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示されている。支援はチーム体制であたり「個別支援」への意識付けがされ、個別で定期面談をおこない必要な支援の把握と対応が図れている。施設内でCAP・LSW・TICの研修を実施している。	
		○	□理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
		○	□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
		○	□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
		○	□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	
		○	□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	
Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	養29	a	危機管理マニュアルを整備し理解が図られている。LINE使用規定の署名もしプライバシー保護への意識付けと配慮をおこなっている。個室を提供し、部屋の施錠、入浴時も施錠ができプライバシーを守る設備となっている。保護者には子どもの個人情報に関する同意書でプライバシー保護の取り組みを周知している	
		○	□子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	
		○	□規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	
		○	□一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	
		○	□子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	
Ⅲ-1-(2)養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
Ⅲ-1-(2)-① 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	養30	a	パンフレットやホームページ、家庭通信で写真や図・絵を用いて施設の理念・基本方針・養育・支援内容が紹介されている。施設の見学は積極的に受け入れている。緊急性にとらわれなければ、入所前の説明は実施できている。	
		○	□理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	
		○	□施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	
		○	□施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	
		○	□見学等の希望に対応している。	
Ⅲ-1-(2)-② 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	養31	b	入所に至るまでの過程では、パンフレット配付、施設見学にて子どもや保護者へ施設環境、支援方法など説明をしている。入所後は支援の同意を書面では残していないが、予防接種、個人情報の取扱いについては、法的根拠もあり書面等の同意を求めている。	措置入所施設であるため、措置権者の児童相談所と協議した上で、子どもの支援にあたり保護者の協力を得ることができれば、児童相談所と協働し子ども、保護者へ支援会議への出席、子ども、保護者へ配慮した支援内容の開示、同意も積極的に行っていきたい。
		○	□子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	
		○	□養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	
		○	□養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
		○	□意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	
Ⅲ-1-(2)-③ 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	養32	b	児童自立支援計画票の「子ども本人」「家庭」「地域ネットワーク」の項目にて、児相と協働し支援内容の見直し変更を行っている。これまで子ども、保護者から不利益を生じているといった意見は聞いていない。自立支援担当職員の配置、窓口は設置しているが十分に機能しているとは言えない。基本的には退所時に担当だった職員が中心になってアフターフォローを実施しているが、その内容や頻度には個人差がある。	自立支援担当職員などが説明はしているが、その内容を記載した文書は渡していない。アフターフォローの一環としてそのような取り組みも考えていきたい。
		○	□養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	
		○	□他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
		○	□施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
○	□施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。			
Ⅲ-1-(3) 子どもの満足の向上に努めている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
Ⅲ-1-(3)-① 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	養33	a	定期的に担当職員との個別面談を実施し、児童の要望や意見を確認している。こども参画のもとでの検討会議は実施していないが、年度当初の全体会や各ユニット会には子ども職員も参加し、要望など確認している。	
		○	□子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
		○	□子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
		○	□職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
		○	□子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
○	□分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。			

III-1-(4)子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
III-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	養34	a	定期的に担当職員との個別面談を実施し、聞き取りをおこなっている。各棟に子どもが自由に意見を書いて投函できる意見ポストを設置している。意見ポストの担当者が決まっており、投書があった場合は、職員会などで確認、対応をしている。年1回発行する園便りにて、苦情解決担当者を保護者へ周知している。	
	○		□養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
	○		□苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	○		□苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	○		□苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	○		□苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	○		□苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	
III-1-(4)-② 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	養35	a	チームで児童の支援にあたっているため、子どもは担当職員だけでなく複数の職員に相談できる体制になっている。心理職員との個別の時間も設けられている。ユニット外に話のできるスペースが管理棟内にある。第三者委員への連絡先を掲示している。	
	○		□子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	○		□子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	○		□相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	
III-1-(4)-③ 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	養36	a	各棟に意見ポストが設置されており、投書があった場合は意見ポスト担当者が確認し、必要に応じて職員会などで検討、対応している。定期的実施している個別面談で出た要望や意見について、内容により担当、チーム内、職員会で検討し、対応している。	
	○		□職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	
	○		□意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	○		□相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	○		□職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	○		□意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	
	○		□対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
III-1-(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
III-1-(5)-① 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	養37	a	感染予防や事故対応のマニュアルが作成されている。救命救急講習を職員が受けて、AEDの使用法などを身につけている。不定期だが、年に数回、危険箇所などの確認、見直し、修復などをおこなっている。	
	○		□リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	○		□事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	○		□子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	○		□収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	○		□職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	○		□事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	
III-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	養38	a	昨年度から継続した支援ができています。	
	○		□感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	○		□感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	
	○		□担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	○		□感染症の予防策が適切に講じられている。	
	○		□感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	
III-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	養39	b	BCPはいつでも閲覧できる状態である。内容の周知や活用について「定期的な」確認の仕組みはまだできていないが、内容の変更がある度に口頭で説明と確認の依頼はできている。	BCPの内容をどれだけ把握しているかは職員によって差が生じていると予想されるため「定期的な確認」の仕組みは設けた方がよい。
	○		□災害時の対応体制が決められている。	
	○		□立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	○		□子ども及び職員の安否確認の方法が決まられ、すべての職員に周知されている。	
	○		□食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	

## III-2 養育・支援の質の確保

III-2-(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
III-2-(1)-① 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	養40	b	支援プログラムは文書化されている。運営方針の重点事項として「人権擁護のためのチェックリスト」は活用している。権利擁護の研修は各自復命書の確認の為、周知徹底にはなっていない。職員の学びの差が生じていると思われる。プログラム実施確認の仕組みはない。	権利擁護について研修へ参加した職員の学びを、全職員が確実に周知し、支援に活かされるよう仕組み化されると良い。
	○	□標準的な実施方法が適切に文書化されている。		
	○	□標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。		
		□標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。		
	○	□標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		
III-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	養41	a	毎月2回チーム会議を実施し、検証・見直しができ、会議または報告書で周知する仕組みになっている。チーム体制が確立している。	
○	□養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。			
○	□養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。			
○	□検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。			
○	□検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。			
III-2-(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
III-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	養42	b	自立支援計画策定、アセスメント共にマニュアルを参考に作成することは継続しているため多角的な意見の合議含む完成度について個人、ユニットによって差があることも変わりはないが、今年度からTIC委員会主体のおたな事例検討会を実施し、その場では多角的な意見が寄せられたため、次回の自立支援計画に反映される仕組みとなった。子どもの意見の取り入れは「なりたいた自分アンケート」で実施できている。	新たな事例検討会を通し、今後は担当・チーム以外の多角的意見を取り入れられた自立支援計画が策定される流れが今後定着すると良い。
	○	□自立支援計画策定の責任者を設置している。		
	○	□アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		
		□部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。		
	○	□自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。		
	○	□自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。		
III-2-(2)-② 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	養43	b	自立支援計画の評価・見直しは年度当初に計画し、定期的に行われている。システムで全職員が確認や、意見を出せる機会も作っている。児童相談所の担当ケースワーカーによっての差異はある。	検討会議の参加職員については、曖昧になっており、明確な役割を取り決める必要な面がある。
○	□自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。			
○	□自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。			
○	□見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。			
	□自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。			
○	□自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。			
III-2-(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
III-2-(3)-① 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	養44	a	システムを利用しての統一した記録の様式があり、全職員が他ユニットや施設全体について把握できるようになっている。	システムを使いきれっていない面や、職員間で記録の記入の仕方などの違いはあり、施設全体での研修の場が必要な面もある。
	○	□子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。		
	○	□自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。		
		□記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。		
	○	□施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。		
	○	□情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。		
	○	□パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。		
III-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	養45	a	ケース書類の扱いや、施設配布のUSBと取り扱いなど規定があり、施設外に記録が漏洩することがないようにしている。入所時など、必要時には、保護者に説明し同意書をもっている。子どもへの説明は曖昧なところがある。	見学時や入所時に、年齢に合わせた個人情報の取り扱いについて、必ず説明する機会を持つようにしている。
○	□個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。			
○	□個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。			
○	□記録管理の責任者が設置されている。			
○	□記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。			
○	□職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。			
	□個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。			

## A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

A-1(1) 子どもの権利擁護	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A① A-1(1)-①	養46	b	定期面談や意見箱などで、子どもが声をくみ取る機会は持つようになっている。規程・マニュアルはあるが、職員が定期的に具体的に検討する機会は少ない。	子どもの権利擁護に関する取り組みを検討する機会を、職員会などに時間を設けていく。
<input type="checkbox"/> □子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。				
<input type="checkbox"/> □子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。				
<input type="checkbox"/> □権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。				
<input type="checkbox"/> □権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。				
<input type="checkbox"/> □子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。				
A-1(2) 権利について理解を促す取組	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A② A-1(2)-① 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	養47	b	権利ノートは入所前に児相職員により実施されている。施設内の取り組みとしては「みんなのけんり」を作成し、子どもたちの目が届くところに掲示している。誰かの権利が脅かされないような支援(定期面談ほか)はしているが、特別、「権利」に焦点を当てたようなアプローチは行っていない。	暴力の被害者となることの予防や権利についての学習機会であるCAPは、現状、隔年での実施としているため、今年度は実施せず。
<input type="checkbox"/> □権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。				
<input type="checkbox"/> □子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。				
<input type="checkbox"/> □職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。				
<input type="checkbox"/> □子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。				
<input type="checkbox"/> □年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。				
A-1(3) 生い立ちを振り返る取組	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A③ A-1(3)-① 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	養48	a	LSW委員会を設置しており、各ユニットからメンバーが参加している。その内容は必要に応じて職員会などで周知されており、研修会という形で学ぶ場もある。また実際に子どものニーズに応じたLSWも実施されている。	
<input type="checkbox"/> □子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。				
<input type="checkbox"/> □事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。				
<input type="checkbox"/> □伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。				
<input type="checkbox"/> □事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。				
<input type="checkbox"/> □子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。				
<input type="checkbox"/> □成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。				
A-1(4) 被措置児童等虐待の防止等	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A④ A-1(4)-① 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	養49	b	子どもや職員から訴えがあった際には、その都度、リーダー会などで共有し、対応を検討、実施している。また年2回、園長面談の際にチェックリストに記入、提出することで意識化を図っている。	不適切な子どもへの関わりについてはその都度対応し改善出来ているが、予防という観点では改善の余地がある。
<input type="checkbox"/> □体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。				
<input type="checkbox"/> □不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。				
<input type="checkbox"/> □子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。				
<input type="checkbox"/> □被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。				
<input type="checkbox"/> □被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。				
A-1(5) 支援の継続性とアフターケア	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A⑤ A-1(5)-① 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	養50	a	各ユニットで工夫した取り組みが実施できており、児相をはじめとした関係機関との連携も図れている。	
<input type="checkbox"/> □子どもの生活の継続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めることともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。				
<input type="checkbox"/> □入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。				
<input type="checkbox"/> □子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。				
<input type="checkbox"/> □家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。				
A⑥ A-1(5)-② 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリーピングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	養51	b	退所後も施設と繋がっていること、相談や訪問が可能なことを伝えている。退所者は自由に来園しており、交流している。急な来園にも対応出来る環境を整えている。施設発信での集いの設定や告知はしていない。	一時保護が多いため、その都度どの職員でも対応出来るようにしておくことが必要。(2024)→情報を共有することで対応出来るようにしている。
<input type="checkbox"/> □子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリーピングケアの支援を行っている。				
<input type="checkbox"/> □退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。				
<input type="checkbox"/> □退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。				
<input type="checkbox"/> □行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。				
<input type="checkbox"/> □本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。				
<input type="checkbox"/> □退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。				

## A-2 養育・支援の質の確保

A-2-(1) 養育・支援の基本	項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A⑦ A-2-(1)-① 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしつかり受け止めている。	養51	b	利用者アンケートという名目では行っていない。性教育の定期面談で職員との距離を探る参考にしている。	必要であればアンケートの実施やそれに代わるものを実施するが、定期面談でどの程度汲みとれるかにもよる。
	○	□職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。		
	○	□子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。		
	○	□子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。		
	○	□子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。		
		□子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。		
A⑧ A-2-(1)-② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	養52	a	チーム毎にルールの違いはあるが、それぞれ柔軟な対応をしている。	
	○	□子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。		
	○	□基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。		
	○	□生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。		
	○	□子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。		
	○	□基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。		
	○	□夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。		
A⑨ A-2-(1)-③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	養53	a	全体会やユニット会の活用。個別の相談や課題の検討などについては、日常的に行っている。	
	○	□快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。		
	○	□子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。		
	○	□子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。		
	○	□子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。		
	○	□つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。		
A⑩ A-2-(1)-④ 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	養54	a	立地条件を活かし、公共機関や施設、地域に点在する公園などの資源を活用している。	
	○	□施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。		
	○	□日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。		
	○	□幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。		
	○	□学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。		
	○	□子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。		
	○	□幼稚園等に通わせている。		
		□子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。		
A⑪ A-2-(1)-⑤ 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	養55	a	地域行事には積極的に参加しており、子ども達も積極的に手伝ってくれている。日々の生活の中でお金の支払い方法やゴミの出し方について伝えている。性教育のマニュアルがあり年齢に応じた「生」「性」について目標設定され、支援に反映されている。インターネットやSNS利用についてもマニュアルがあり、使い方について年齢や能力に応じて支援をしている。	
	○	□子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。		
	○	□子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。		
	○	□地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。		
	○	□発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。		
	○	□発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。		

A-2-(2) 食生活		項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A12 A-2-(2)-① おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。		養56	a	日常の中で職員と子どもと一緒に食事準備を行うことや、おやつ作りをする機会を設けている。また個々の好みや食事量に応じた食事の提供を心掛けている。給食会議を毎月設け、食事状況について職員全体で共通認識を図っている。食事アンケートの記入や、栄養士が実際にユニットで食事をするなどし、残食状況や子どもたちの好み、子どもたちの声が栄養士に届くようにしている。	
				<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気できれいなお食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
				<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	
				<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	
				<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	
				<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	
A-2-(3) 衣生活		項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A13 A-2-(3)-① 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。		養57	a	年間に衣類費が確保されており、サイズに合った清潔な衣類を用意している。子ども達とコミュニケーションを取りながら、服の好みを把握し一緒に購入している。季節やTPOに応じた服を着るよう伝えている。	
				<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	
				<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
				<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	
				<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	
				<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	
				<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	
A-2-(4) 住生活		項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A14 A-2-(4)-① 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。		養58	a	環境美化係が設置されており、環境整備が行われている。居室は基本的に個室対応とし、子ども達が安心出来る空間を提供出来るよう努めている。生活の中で子ども達と一緒に整理整頓を行い、習慣化出来るよう支援している。	
				<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	
				<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
				<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
				<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
				<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
				<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
				<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	
A-2-(5) 健康と安全		項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A15 A-2-(5)-① 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。		養59	a	毎月、身長体重測定と嘱託医による内科検診を実施している。日々の健康状態を記録することで職員間の情報共有ができていて、必要に応じマニュアルの見直しもしている。	施設全体での場で、医療・健康に関して学習する機会は不足していると思われる。
				<input type="checkbox"/> 子ども達の平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	
				<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	
				<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	
				<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	
A-2-(6) 性に関する教育		項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A16 A-2-(6)-① 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。		養60	a	年度初めにアセスメントを行い、定期的な面談、年度途中にも振り返りを実施するなど、必要に応じた性教育を行っている。	CAPIは実施しているが、施設全体での場で、外部講師による学習機会は不足していると思われる。
				<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	
				<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
				<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
				<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	
A-2-(7) 行動上の問題及び問題状況への対応		項目	自己評価	判断した理由や根拠	改善に向けたメモ
A17 A-2-(7)-① 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。		養61	a	今年度より月一回、職員全体で事例検討会を実施している。また、事故発生時のマニュアルを周知し、問題発生時に迅速かつ丁寧に対応できるようにしている。職員ケアの一環としてメンター制度を導入している。	
				<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子ども達の安全を図る配慮がなされている。	
				<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	
				<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮している。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
				<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	

<p>A18 A-2-(7)-② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。</p>	<p>養62 a</p>	<p>定期的な面談、相関関係の整理、建物の構造と勤務体制による死角の把握、勤務交代時の引き継ぎなどをすることでリスクを把握し、必要に応じた対応をしている。児童、職員共にCAPを受け、安心安全が権利であることを学んでいる。</p>	
<p>A-2-(8) 心理的ケア</p>			
<p>A19 A-2-(8)-① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。</p>	<p>養63 a</p>	<p>自立支援計画に基づいて定期的な心理職員との時間を設け、必要に応じて児童相談所、病院との連携も取りながら支援が出来ている。</p>	
<p>A-2-(9) 学習・進学支援、進路支援等</p>			
<p>A20 A-2-(9)-① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。</p>	<p>養64 b</p>	<p>必要とする子供に対し、個別スペースの提供や学習塾の利用など積極的に行っている。学習に対し後ろ向きな児童に対してのアプローチは不十分。</p>	<p>知的な遅れのある児童が大人と対1で学習に取り組める時間を保証できると良い。</p>
<p>A21 A-2-(9)-② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。</p>			
<p>A22 A-2-(9)-③ 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。</p>	<p>養65 a</p>	<p>なりたい自分アンケートなどを活用し自立支援計画に盛り込んだり、担当から使える制度や奨学金の話などもできている。退所後のアフターフォローもしっかりできるような市町村とも連携が取れている。</p>	
<p>A-2-(10) 施設と家族との信頼関係づくり</p>			
<p>A23 A-2-(10)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。</p>	<p>養66 a</p>	<p>各関係機関と連絡をとり、情報共有を行うことができている。アルバイトなどでお金が入った時には、子どもと職員とでお金の使い道について相談できている。退所が近い子どもに関しては、退所後の生活を見据えた話し合いもできている。</p>	
<p>A-2-(11) 親子関係の再構築支援</p>			
<p>A24 A-2-(11)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>養67 b</p>	<p>家庭支援相談員の役割が明確化されていない。何をするのか知らない職員もいる。家庭支援相談員の役割は相談員ではなく、各ユニットリーダーが担っている。</p>	<p>家庭支援相談員の役割の明確化とどういった役割があるのかを全職員に周知する。</p>
<p>A-2-(11) 親子関係の再構築支援</p>			
<p>A24 A-2-(11)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>養68 a</p>	<p>面会交流が行えない家庭には電話交流の提案などを児童相談所に行い、家族関係が切れないよう努めている。子どもや親から交流についての話を聞き、家庭の課題解決に向けて取り組んでいる。面会や宿泊交流の際には施設内にある親子交流室を利用することもある。</p>	<p>家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。</p>